



児文研だより

令和6年8月28日

No. 3

【浦（金程小）】

夏期研修会を開催しました！！

令和6年8月5日（月）、宮内小学校にて夏期研修会を行いました。各分科会からのそれぞれの提案は、ご参加いただいた皆さんから好評をいただき充実した研修会となりました。今年度の参加者は、52名とたくさんの先生方にご参加いただきました。その活動の様子を報告します。

夏期研修会テーマ

「日々の学習から発表へ

～子どもが輝く学習発表会・学芸大会等をみすえて～

〈第1分科会～授業からつなげる発表会～〉

午前中は、2年生生活科「ぐんぐんそだてわたしの野さい」より、表現活動を通して単元目標にせまる方法を体験していただきました。具体的には、資料を元に野菜の栽培の過程で起こった事柄をプリントに書き出します。そして、その中から最も自分が伝えたいことを選び「せりふ」にします。その「せりふ」をグループの友達とつなげて台本を作っていきます。台本作りのポイントは二つあり、一つ目は時間を区切って活動すること、二つ目は台本の粗方ができていれば書くことをやめて実際に動作化して劇を完成させていくことです。これらの表現活動を通して、野菜作りで気付いたことや分かったことを振り返ることができました。



午後は、「ホット・シーティング」（質問コーナー）という技法を用いて、5年生国語科「やなせたかしーアンパンマンの勇気」と6年生国語科「海の命」の登場人物像に迫る活動をしました。どちらも教材文を熟読して、「たかし」や「太一」がどんな人物像なのか自身の考えをもちます。その上で、たかし役・太一役にインタビューをしていきます（ホット・シーティング）。役にインタビューして話を進めていくことは、一人では気付かなかったことに気付くこ

とことができましたし、また、グループ内で役を全員が体験したことは、各自がもっていた人物像をさらに広げたり深めたりすることにもつながりました。これらの活動は、単元の指導目標でもある読書が自分の考えを広げることや意見や感想を共有することでそれぞれの考えを広げられることに有効的な手立てであることを学びました。

〈第2分科会～授業からつなげる学芸大会～〉



午前中は、心と体をほぐすゲームなどをした後に参加者の皆さんが研修会に参加した理由やこの研修に期待していること、今困っていることなどについてフリートークをしました。夏休みが明けて、学芸大会を見据えた時に、どのように子どもたちの意識を表現活動に向かわせていけばよいのか、また授業で学んだこと

を台本にして発表ができるということについて説明しました。その後、参加者の皆さんに子どもたちと同じ体験ができるよう3つのグループ（詩の表現・CMづくりの表現・音楽の創作）に分かれて活動していただきました。詩をどのように身体で表現するか音読をしながらアイデアを出し合ったり、総合の学習を生かして市制100周年を祝う川崎のCMを作ったり、みんなで出し合った言葉をつなげてラップを作りそれにボディーパーカッションを合わせて躍動感ある音楽を表現したりなど、参加者の皆さんが主体的に取り組む活動になりました。そして、それぞれが仕上がった時点で互いに見合いながらアドバイスし合ったことで、よりよい発表に仕上げることができました。参加者の皆さんからさまざまな意見が出された充実した活動になりました。午後は、「穴あき台本」を使って、午前中のグループで創り上げたものをつないで台本を完成させ、学芸大会縮小版のような劇の練習をしました。学芸大会に向けての一連の流れを凝縮したような活動になりました。

〈分科会発表会〉

1日の締めくくりはそれぞれの分科会が成果を発表し、活動内容を共有しました。第1分科会では、ミニトマトを育てたことを振り返った劇をしたり、やなせたかしにインタビューするホット・シーティングを紹介したりしました。第2分科会では、穴あき台本「変そう！王様フィーバー」(学芸大会用の台本)を使って、午前中に活動してきたグループの発表をつなげて劇を披露しました。どちらの発表も参加者の皆さんの心の解放感が感じられ、和やかな雰囲気の中、研修会は終わりとなりました。



～参加者の声～

- ・体験型の研修で、非常に分かりやすくかつ「楽しく」取り組むことができました。表現活動は実感を伴った学びになり、ただ見る・読む・書くものではなくなるので、児童にとって良いと思いました。
- ・育てた野菜を劇にして発表することは、野菜について愛着がわき、理解したことを伝えたいという思いが強くなるように思いました。
- ・ホット・シーティングは、質問し合うことでより深く登場人物の生き方について考えることができました。全体の前では、難しい子も少人数の中で役になりきることで、自分の思いを表現できるのではないかと思います。
- ・「表現する」ことは、自分を伝えることでもあると感じました。何よりも「楽しい」がとても詰まっていると感じました。
- ・実際にCM、ラップ、劇などを作ったり動いたり考えたりすることによって、創り出していくことを体感しながら学ぶことができました。子どもたちの気持ちがより実感できました。